



Yonago East Weekly

「ロータリーに誇りを！ 参加しよう そして、行ってみよう」

- 創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長/木美俊彦 ●幹事/長棟信泰 ●会報/楠 明彦

会員数 90名
(正会員 89名 名誉会員 1名)

今週のお祝い

結婚記念祝: 2日 植田 昭君 10日 木下博夫君
13日 井上賢明君 永島清孝君
17日 池口由紀彦君 18日 赤山俊寛君
20日 戸田 忍君 22日 佐田山有史君
23日 尾沢三夫君 24日 野坂美仁君
27日 田淵亮達君

会長挨拶

本日、状差に次年度役員表が入っておりまして、多少肩の荷が軽くなったような気がして喜んでおります。

本日は私の趣味について話を致します。若い頃から中南米のラテン音楽、中でもキューバ音楽が大好きで、7、8年前にはキューバまで行ってきました。機会があればキューバの写真もあり卓話をしたいです。

本日はキューバの音楽に絞って話します。キューバは、アメリカのフロリダ半島のまん前にあり、北の方がメキシコ湾に、南の方がカリブ海に面しています。コロンブスが発見したのですが、『地上で見た一番美しい島』と表現している様に、カリブの真珠ともうたわれています。面積は日本の半分位で、沖縄と同じ緯度にあります。人口は1千百万人程度で、スペインに支配されていましたので白人が約60数%、白人と黒人のハーフが約20数%、残りが黒人と云う構成です。なぜキューバ音楽なのかと云うと、私は、クラシック音楽が苦手で、コンガとかボンゴとかの打楽器が入ったリズムが好きで、何十年も聴いています。どんな音楽が有るか云うと、ソンとかボレロ、ルンバ、チャチャチャ、マンボ、サルサ等が有ります。

キューバ音楽のベースになるのは、元々インディオの原住民が住んでいたところに、スペイン系の音楽と奴隷の黒人の打楽器がリズムを刻む音楽が融合して出来たそうです。世界中のラテン音楽はキューバ音楽がかなり影響しているようです。キューバで最も大きなナイトクラブのトロピカーナは最大のエンターテイメントでした。まだまだ話したいのですが、この辺で次の機会にお話ししたいと思います。

幹事報告

1. 次年度理事・役員・委員会構成表(案)配布
2. 5/14 新旧引継ぎクラブ協議会 18:30~
3. 4/13 地区研修・協議会 (益田 グラントワ) 高橋会長エレクト含む6名出席
4. 4/26(土) IM 12:30~登録受付 13:00~会議
5. 6/7 青少年交換プログラム引継ぎ会、Inbound 学生送別会並びにOutbound学生壮行会のご案内 (津山国際ホテル)
6. 例会変更のお知らせ FAXにて案内

今後の主な行事予定

- 5/14 新旧引継ぎクラブ協議会 18:30~
(2F 高砂)
- 5/21 第5回家庭集会 18:30~
(ワインレストラン クスクス)



Engage Rotary, Change Lives
ロータリーを實踐し みんなに豊かな人生を

<プログラム>

「市政報告」

尾沢三夫 会員



皆様こんにちは。米子市議会選挙が6月15日に告示、6月22日に投票が決定しております。8年前、61歳の時に市議員に挑戦して、2回の当選をさせて頂きました。3期目の挑戦となります。本日は米子市議会が変わりそうだと言う話を致します。市民から議員定数を減らせとの陳情があり、議会で採択を致しました。議員定数26名、4名減と決まりました。今回現職30名中の12名が不出馬の様で、その中の3名は県議会への転身ですが、9名が引退の様です。現在のところ、新人12名が立候補するようです。前回の結果では、1200票で落選、1300票で当選でした。皆様に「5つの信条」をお約束いたします。

1. 地方行政の無駄を省き、住民の立場にたった政策の実現に努めます。
2. 歴史と祖先を敬い、お年寄りを大切に、子供たちがのびのび健康やかに育つ教育環境づくりに努めます。
3. 市民で賑わう街づくりを推進し、中小企業の振興と雇用の安定を図り、商都米子の復活に努めます。
4. 中海圏域の協力体勢を確立し、環境整備をはじめ観光、商工、農林水産業の発展を図ります。
5. 住民の声が直接市政に届く開かれた市議会の充実努めます。皆様宜しくお願い致します。

「最近の葬儀事情」

宮永誠治 会員



最近の葬儀事情についてお話しします。お亡くなりになる方は年々1～1.5%の増加が有りますが、葬儀の規模は年々縮小しています。家族葬と云う言葉がマスコミによって一般にも定着していますが、それぞれの方々で解釈が異なっています。家族だけ、親族を含めて、親族と親しい友人を含めてと考える方等様々です。5年前は少なかったのですが、昨年実際に我が社葬仙の中海圏域での家族葬は25%程でした。

家族葬でとの相談が当社に有った時に、必ずもう一回考えて頂く様にしています。何故かと云うと、家族葬をしては後が大変な事になってしまう方が沢山いらっしゃいます。例えばここにいらっしゃる方は殆どそうでしょうが、特に生前社会的に付き合いの広い方、功績がある、もしくはご子息や親族に付き合いの広い方がいらっしゃる場合、家族葬をして会葬を断ると、又は葬儀後に亡くなった事が知れると、大変です。ご自宅に弔問の方が沢山いらっしゃいます。勿論まとまってでは無く、ばらばらにそれぞれ何日にも渡って弔問にいらっしゃいます。沢山の電話があり、総ての対応が必要となり、一回の葬儀で済む事が、何日にも渡る事になってしまいます。葬儀と云うのは区切りとなる大事な場です。葬儀は会社経営や近所付き合いの代わりのお披露目の場でもあります。最初に家族葬の相談が有っても何人かは一般的な葬儀になさる方がいらっしゃいます。お墓も縮小傾向にあります。墓守(後継者)がいない現状があります。その場合は永代供養となります。本来仏教には永代供養と云う概念は無い様です。結局将来無縁仏となる様です。ちなみに米子市にはこれを受けるお寺は無いようです。最後に葬仙グループで発行している<終活ノート>の24ページのチェックですが、自分の希望では無く、家や会社の事を考えてチェックして下さい。また葬儀のご相談は何でも受けますので是非、葬仙にご相談下さい。

4/20(日) 大山春の一斉清掃



次回プログラム

5/7 「ロータリーの友」紹介 雑誌委員会
「理事報告」